

3 市政関心度の分析

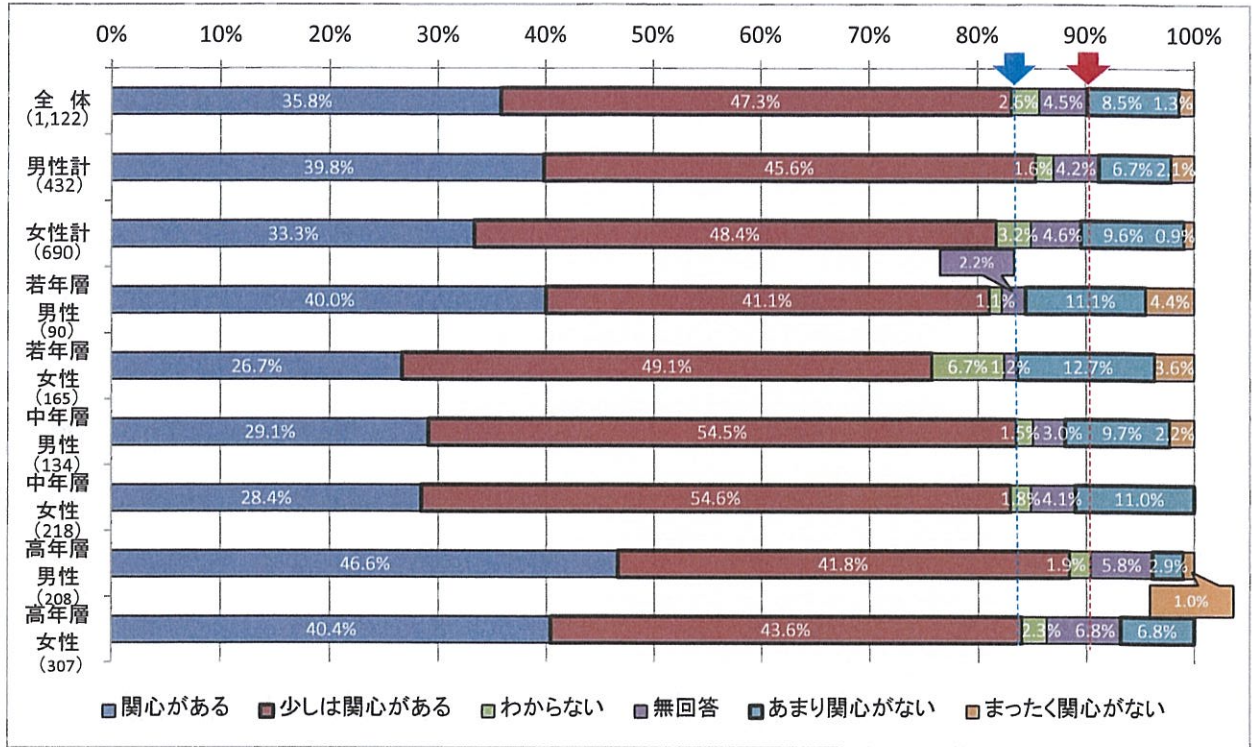
「1 生活実感の分析」と同様の方法で分析を行っているが（P2-4 参照）、1つ異なる点として、回答項目のうち「関心がある」及び「少しは関心がある」を『概ね関心がある』として肯定的な回答に、「あまり関心がない」及び「まったく関心がない」を『概ね関心がない』として否定的な回答と捉えている。

なお、市政関心度は全般的なことを尋ねているため、生活実感に対する回答よりも漠然としたものになると理解すべきである。特に、この平成23年度は、10年間の基本計画の開始年度であるため、むしろこれから先にどれだけ肯定的な回答が増えるか、あるいは減るかを把握するための基礎的データと捉えることがポイントである。

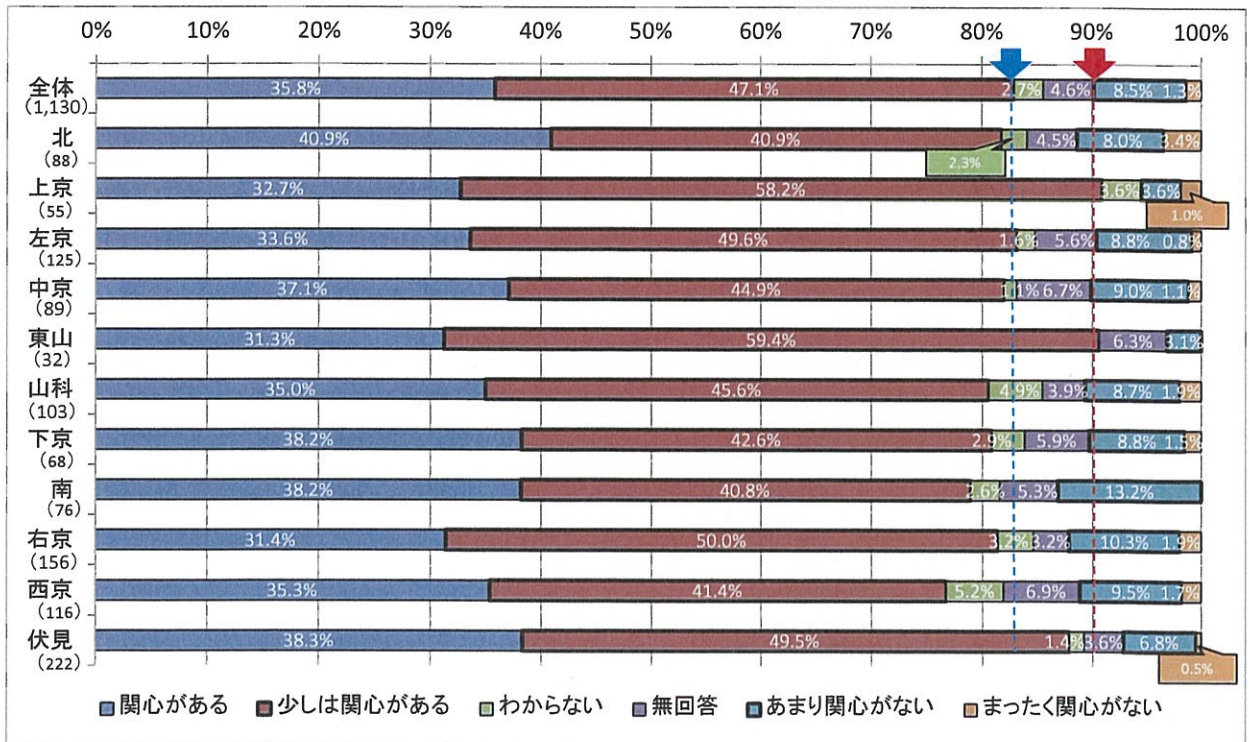
※世代別・性別の回答状況と居住区別の回答状況は、「2 政策重要度の分析」と同様である（参照 P177）。

市政関心度

(1) 世代別・性別分析



(2) 居住区別分析



(3) コメント

全体的には、概ね関心があるという回答の割合が最も高く、その数値は80%を超えた。また、男性と女性との比較では、大きな差は見られなかった。

世代別・性別を相対的に見ると、概ね関心があるという回答の割合は高年層男性において高く、その数値は88.5%であった。一方、概ね関心がないという回答の割合は若年層女性及び若年層男性において高かった。

居住区別を相対的に見ると、概ね関心があるという回答の割合は、上京区及び東山区において高く、その数値は90%を超えた。一方、概ね関心がないという回答の割合では、大きな差は見られなかった。